

授業改善等に関する報告書（2022 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Basic Grammar a	猪熊 作巳	<p>特徴的なスタイルで授業を進めたため戸惑った学生もいたようですが、実直に英語に向き合う姿勢を身につけてくれた学生は、その成果が期末試験に現れていました。一方で、e-learningを含めた授業外学修を最後まで習慣化できない学生も多かった点は不安材料です。自律的・能動的に学ぶ姿勢を伸ばしていきましょう。</p>
Intensive Reading a	塩田 航希	<p>丁寧に授業アンケートにご回答いただき改めて本当にありがとうございました。振り返ってみると、やはりこの授業はみなさん1人1人の積極的な授業参加や授業外におけるご質問や予習復習に対する努力を通じて、徐々により良いものに成長していったと思っております。私自身もみなさんのお陰でやりがいを感じることのできる授業でした。大変感謝しております。それでは授業アンケート結果に対するコメントに入ります。</p> <p>1. 大学全体平均を僅かながら下回った項目</p> <p>Q5: シラバスに記載されている授業の内容に一致していましたか? Q6: 各回の授業の進むスピードは適切でしたか? Q14: あなたがこの授業で自分に成績を付けるとしたら... (省略)</p> <p>2. 上記項目における具体的な改善案</p> <p>Q5に関しては、当初のシラバスの予定ではみなさんが取り組むことが少々盛りだくさんの内容となっていました。今年度初めてこの授業を担当し、みなさんの英文読解や理解の速度をある程度把握することができました。そこで今後はシラバスの計画の段階で取り組む内容をもう少しだけ抑えていこうと思えます。</p> <p>次にQ6に関しては、おそらく授業の進むスピードがやや速かったと理解しております。例えばみなさんのコメントに、『徐々に授業進度が早くなっているように感じた』や『プロジェクトで提示していた追加資料の切り替えがやや早い気がする』といったご意見をいただきました。確かに私自身も思うところがあります。そこで今後は資料の切り替えの前に一度みなさんに確認をしたり、ペアワークを通じて理解確認の時間を設けることで改善したいと思います。</p> <p>最後にQ14に関しては、みなさんの自己評価ですが自己肯定感を高めてあげられるようにすれば良かったと思っております。私自身はみなさんは非常に頑張っていたと思えます。周囲と比較してしまったり、自分に自信がない方が多いのかなと思えました。これに関しては授業内での発言をもっと褒めたり、ペアワーク中にみなさんともっとコミュニケーションを図ることでみなさんの自己肯定感を高めたいと思えます。</p> <p>3. みなさんのコメントから評価されていた授業の独自性</p> <p>例えば『誰よりも学生のことを考えてくださっていた』、『分かるまで質問に丁寧に対応してくださった』、『大学で受けた授業で一番為になった』、『挙手性のおかげで積極的になれた』、『英語が楽しくなった』などがありました。私自身がとにかく楽しく丁寧に積極的に授業を実施したことが実を結んだのだと思えました。ありがとうございます。</p> <p>4. 学生からの要望</p> <p>復習のために追加資料を配布していただきたいという声がありました。とにかくメモを必死に取ってもらいたいという思いが私の中であって、配布しなかったのですが、今後は少なくとも資料の一部を配布するにしたいと思えました。</p> <p>『メッセージ』</p> <p>みなさんが前期に履修した授業内容も復習をしなければ残念ながら一瞬で忘れてしまいます。夏季休暇中も英語に限らず、自身の成長に向けてコツコツと頑張ってください。授業でもお伝えしたようにどんなことでも構いませんので、遠慮なく今後もいつでもご連絡ください。</p>
Introduction to TOEFL	金田 迪子	<p>今年度のIntroduction to TOEFLは少人数のクラスとなりましたが、履修を行っていただいたみなさんには大変意欲的に授業にご参加いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>今年度は反復を通してTOEFLの基本の問題形式を学ぶことを目標に、練習問題の演習と解説を中心に授業を進めました。その結果、半年間で非常に多くの問題のバリエーションを授業内で取り上げることができましたが、反面、一つ一つの問題の解説について、時間が十分に確保できていないのではないかと感じる面もありました。TOEFLの公式問題は、特に大学一年生のような初学者にとっては難易度が高く、半期完結の授業という時間内に到達できる目標は限られますが、少しでもTOEFLという試験形式に対するハードルを下げる内容が考案できればと思います。</p> <p>またIndependent Speaking Task、Integrated Speaking Taskなどのスピーキング問題への取り組みでは、履修者のみなさん全員から積極的な回答をいただき、大変ありがたく思いました。一方でだからこそ、授業内でより発信型スキルを養う演習を取り入れる必要性も強く実感しました。半年間のご参加を誠にありがとうございました。</p>

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	塩田 航希	<p>丁寧に授業アンケートにご回答いただき改めて本当にありがとうございました。この授業は1週間に2回もあり、英語で書かれたテキストを約100ページも丁寧に読解しましたね。丁寧さを要求される予習や復習などもあって大変だったと思いますが、確実に英語の知識や段落構成などに関して理解が深まったと思います。そして私自身は特に授業の後半はみなさんの成長を感じることが多くて嬉しかったです。またそれがこの授業に対するやりがいにもなっていました。一生懸命に取り組んでいただき本当にありがとうございました。それでは授業アンケート結果に対するコメントに入ります。</p> <p>1. 大学全体平均を下回った項目</p> <p>Q6: 各回の授業の進むスピードは適切でしたか? Q9: 板書やパワーポイント、配布資料は分かりやすかったか? Q14: あなたがこの授業で自分に成績を付けるとしたら... (省略) Q16: あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか?</p> <p>2. 上記項目における具体的な改善案</p> <p>まずQ6に関しては、授業進度が早かったのか?遅かったのか?という点が授業および授業アンケートからはあまり見えてきませんでした。しかし何かしらご意見を持っていたのだと思います。そこで具体的な改善案としては、みなさんが意見を言いやすいようにコミュニケーションを図ったり、授業の最後などに質問の時間を設けることで1人1人の理解度を把握するような時間を設けようと今後思います。</p> <p>Q9に関しては、実際にコメントの中で『実は目が悪くてあまり見えていなかった。そのため資料をmanabaで配布して欲しかった』などのご意見がありました。それに関しては確かに配慮不足だったと思います。</p> <p>そこでまずは資料の中の文字サイズを大きくして、出来る限り見やすくするといった改善案を取ろうと思います。</p> <p>Q14およびQ16に関しては、おそらく自己肯定感の問題ではないかと思っております。みなさんと多くの時間を過ごした中で比較的自信がなかったり、周囲と比較して落ち込んでしまう方が多かったような気がしております。みなさん1人1人一生懸命に頑張っていたと思うので、もっと自分を認めてあげてください。具体的な改善案としては、学生が発言した際はもっと褒めたり、ペアワーク中などは学生の取り組みに注目して、その中でそれぞれの良さを見つけたりするように意識したいと思います。</p> <p>3. 学生のコメントから見る授業内の工夫</p> <p>例えば、『先生が頑張っている姿を見て頑張ろうって思えた』、『学生に寄り添って質問しやすい環境を作ってくれた』、『楽しくて一番為になる授業だった』、『挙手性のおかげで予習の段階で何が求められるか考えることができた』、『発言が苦手でも頑張れたことで自信がついた』など、色々とコメントいただきました。私自身の英語や授業に対しての姿勢がみなさんにも伝染して、共に前を進むことができたのだと思います。</p> <p>4. 学生からの要望</p> <p>挙手を要求する際にもう少し手が挙がるまで待っていただきたいという声がありました。つまり質問に対して考える時間が欲しかったということだと思います。教えてくださってありがとうございます。それに関しては考える時間を設けるようにいたします。</p> <p>『メッセージ』</p> <p>みなさんが前期に履修した授業内容も復習をしなければ残念ながら一瞬で忘れてしまいます。夏季休暇中も英語に限らず、自身の成長に向けてコツコツと頑張ってください。授業でもお伝えしたようにどんなことでも構いませんので、遠慮なく今後もいつでもご連絡ください。</p>
Paragraph Writing a	金田 迪子	<p>今年度の授業は新教科書の導入、新しいe-learningシステムの導入等への対応に必要な時間が多く、その分十分に授業準備の時間が取れなかったことを実感しています。履修者の皆様には様々なトラブルでご迷惑とご心配をおかけいたしました。積極的に授業に参加して下さり誠にありがとうございました。</p> <p>今年度の本授業で提出されたライティング課題はいずれも非常に完成度が高く、特にオンライン添削システムCriterionと連動させたオピニオン・エッセイの課題では、本授業の通年の目標である複数のパラグラフを含む文章の準備段階に到達している原稿も多く見られました。授業で取り組んだ範囲での文法ミスも少なく、その分文章の構成や論理的なアイディアの展開のさせ方等、講師が発信すべきフィードバックの内容についても半期を通して向き合わせていただく貴重な機会となりました。</p> <p>教材研究やe-learningと授業内容の連動等、内容面での新しい課題が多かった分、授業内での指示や情報共有など、履修者のみなさんへの細かなケアに力の及ばなかった面が多くあったことを大変申し訳なく思っています。このフィードバックを基に、履修者のみなさんが不安なく授業に参加できる授業運営を目指したいと思います。</p>

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	諏訪 友亮	今期から導入板Criterionへの評価はまずまずでした。板書についてはもう少し見やすくなるよう工夫したいです。
Paragraph Writing a	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとう。 後期も頑張ってライティングを学んでください。
アメリカの文化と社会	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございます。オンデマンドという形態で慣れないこともあったかもしれませんが、多くの学生さんが真摯に臨まれており、心強く思っております。自ら調べる力がついた一など、のコメントも嬉しく思っております。本授業自体は終わりましたが、アメリカ文学文化に関するご質問などございましたら、ご連絡ください。ますます充実した学生生活にしていきましょう。
アメリカ文学・文化演習 g	深瀬 有希子	アンケートの回答をありがとうございます。履修者数が多く、また、コロナの関係で、履修者のみなさん同士が直接に意見を交換する機会を十分にとれなかったのが残念でした。よりアクティブな授業を展開できるように、今後、改善していきたいと思っております。授業自体は終わりましたが、関連することで何か質問などございましたら、メール等でお気軽にお尋ねください。
アメリカ文学・文化講義 a	稲垣 伸一	毎回の授業後に提出されたコメントシートを読むと、多くの履修者が熱心に授業に取り組んでくださったことがよくわかり、コメントからはこちらも気づかされるが多かったです。授業ではスピリチュアリズムを中心にアメリカにおける女性解放運動やユートピア運動について考えました。この授業が19世紀アメリカを考える上での1つのヒントになれば授業の目的は達成されたと思っております。おつきあいいただきありがとうございます。
アメリカ文学・文化講義演習 a	佐々木 真理	毎回の課題が多いにもかかわらず、皆さん、興味を持って熱心に取り組んでくださって、添削するのが楽しい授業でした。最後の個人のスピーチも準備が大変だったと思いますが、それぞれ素晴らしい内容でした。半年間、お疲れ様でした。
アメリカ文学史 b	佐々木 真理	この授業を通して、アメリカ社会やアメリカ文学に興味を持ってくださった方が多く、何よりです。毎回の課題は大変だったと思いますが、皆さん、毎回熱心に取り組んでくださいました。半年間、お疲れ様でした。
イギリス文学・文化演習 c	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとう。 一限の授業で大変でしたが、よく頑張ってくれました。 シェイクスピアの作品を通して学んだことを、これからの糧にしてください。
イギリス文学・文化演習 g	土屋 結城	19世紀のイギリスで活躍した作家メアリー・シェリーの代表作『フランケンシュタイン』を読み、作品の読解並びに19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.52~4.86の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実が挙げられる。事前事後学修時間に関しては、比較的確保されているようなので、現在の取り組みを続けるとともに、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。
イギリス文学・文化講義 a	諏訪 友亮	昨年度よりも全体的に2割くらい量が多くなり進むスピードが早かったと感じる人が増えたようです。来年度は量を抑えつつ、全く興味を持たないで受講した人への対策を考えたいと思っております。
イギリス文学・文化講義 c	土屋 結城	物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像や当時の社会についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.47~4.71の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化講読演習 a	志渡岡 理恵	演習だったが受講生が60名と多かったので、グループでのプレゼンテーション形式にした。どのグループも資料収集、分析、発表の構成がしっかりしていて、さすが4年生と感心する場面が多くあった。満足度は4.31で、分かりやすさは4.65、双方向の工夫は4.62だった。「発表する際に、どのような構成なら理解してもらえるかを考える力が身についた」、「チームワークの大切さや、計画的に資料を集めることの大切さを実感できた。また、相手に伝わりやすい言葉選び、スライドの作り方が意識できた」、「卒論では英語学を選択しているため、講読演習では別分野を学びたいと思い、この講義を受講しました。学生の発表主体で行われ、知識を増やすだけでなく、誰かと一緒に物事に取り組むことの面白さと難しさをも感じることができました」などのコメントが寄せられた。
イギリス文学史 a	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとうございます。 後期もイギリス文学史を頑張ってください。
プレセミナー	佐々木 真理	4年次の卒論へとつながる力を培うことを目標としている授業ですが、最後のプレゼンもレポートも学習したことをきちんと吸収した成果が出せていてとてもよかったと思います。アンケートの提出者数が少ないのが、反省点です。…最終回に、アンケートに記入し提出する時間を取ったつもりでしたが、もう少し工夫が必要でした。
プレセミナー	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。みなさんの努力もあり、本授業の目標である、発表する力と書く力を伸ばすことができたようで、嬉しく思っております。ほかの授業や、来年度から始まるゼミで、それらの力をますます伸ばしていきましょう。授業自体は終わりましたが、ご質問などあればお気軽にご連絡ください。
プレセミナー	諏訪 友亮	昨年度と同内容だったものの、難しいと感じる学生が増えたようでした。来年度はクラスのレベルに合わせて授業の難易度と進むスピードを調節し、重要となる教科書の読み込みについては授業外での学習も促す、パラグラフ・ライティングや盗用防止のワークを盛り込むなど改善します。
プレセミナー	土屋 結城	「実践入門セミナー」「英文入門セミナー」を受け、アカデミック・スキルの更なる学習を進め、4年生の「卒論セミナーa、b」につなげることを目的としている授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「といった項目で4.61~4.94の評価だった。おおむね、授業内容に関しては一定の理解・評価を得られたと思う。今後の課題としては、双方向性の確保が挙げられる。manabaの「個別指導」や「レポート」のコメント機能を利用して、フィードバックを丁寧に行うなどして改善したい。
プレセミナー	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとうございます。 卒業論文にむけて役に立つことができれば幸いです。
英語学演習 c	猪熊 作巳	少人数で、意欲的な学生と共に授業を進めることができ、充実したコースとなりました。授業を「聞く」のではなく、自分たちで授業を「行う」姿勢を見せてくれたことは、非常に心強く感じています。この調子で卒論に向けて楽しみながら学び続けましょう。
英語学概論 a	猪熊 作巳	毎回のコメントに加えて復習用の小テストを行った効果か、事前・事後を含めた毎週の取り組み時間が全体的に向上し、履修者の理解度がかなり可視化されました。オンデマンド科目は様々な可能性を持った形態ですが、その分、学生自身の学修姿勢が問われます。
英語学講読演習 a	柳田 亮吾	全体的に良い評価を頂いたようで、大変嬉しく思っております。想定よりも受講生がかなり少なかったのですが、その利点を利用して、かなりインターアクティブな授業をするよう心がけました。毎回の授業で受講生のみなさんお一人お一人と少しではありますが、ことばを交わせたのが良かったと思っています。みなさんも積極的にペアワークやグループワークに参加下さったので、授業の雰囲気も良かったと思います。受講生によって社会言語や談話分析についての知識に差があったので、授業で読み進めていくマテリアルの選択が少し難しいところがありました。今回は新書・入門書から学術論文まで幅広く読みましたが、可能ならば英語で書かれたマテリアルも授業で読めたらよかったなと思っています。また、授業で扱うマテリアルについては教員が選定するだけでなく、受講生のみなさんに選択してもらい、発表してもらおうという機会も設けることができるとより良かったかと思っています。この授業は、卒論執筆を意識しつつも、ことばと関係した社会の問題を考えることを目的としていましたが、授業最後の発表とレポートを拝見・拝読した限り、受講生みなさんがそれぞれの形で談話分析を通して社会の問題を考えて下さっていたと思います。この調子で卒論も完成させて頂ければと思います。

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
女性と英語圏文学 a	志渡岡 理恵	オンデマンド授業で回答率が20%台だった。回答率を上げる工夫が必要である。満足度は4.17、分かりやすさは4.29だった。「文学において作者が示している考えや表現を発見する力が身に付いた。」「作品と現代の繋がりを、当時の社会背景などを女性作家を通して考え、学びを深めることができた。」「女性の視点から見た当時の社会や彼女たちが感じていた不安、考えなど自分にとって比較的読みやすく内容を理解することが出来た。文学には様々な視点があることに気づくことが出来てとてもよかった。」「資料をよく読み、理解する力が身についた」など好意的なコメントを書いてくれた受講生が多かったのは嬉しかった。
女性と言語文化	柳田 亮吾	全体的に良い評価を頂いたようで、大変嬉しく思っております。想定よりも受講生がかなり少なかったのですが、その利点を利用して、かなりインターアクティブな授業をするよう心がけました。記憶力が悪いながらも、受講生のみなさんのお名前を憶えて、毎回の授業で一人一人と少しではありますが、ことばを交わせたのが良かったと思っています。みなさんも積極的にペアワークやグループワークに参加下さったので、授業の雰囲気も良かったと思います。授業の前半ではことばとジェンダーに関する伝統的な研究を紹介し、後半は社会構築主義的な考えを紹介しましたが、後半の部分はもう少しわかりやすく、例ももう少し豊富に提示できれば良かったかと思っています。また、この授業ではこれまでの研究を学ぶだけでなく、それをもとに自身で簡単な調査を試みるというのを目的としていましたが、もう少し調査のデザインについてについて授業でお話すれば良かったかなとも思っています（とはいえ皆さんの発表はとても面白いものばかりでした）。これらは今後の課題としたいと思います。
卒論セミナー a	稲垣 伸一	前期は履修者のみなさんが熱心に卒論アウトラインの作成に取り組んでくださったと思います。作成したアウトラインを元に、夏休みから後期にかけてよい卒業論文を作成できることを期待しています。
卒論セミナー a	佐々木 真理	半年間、卒論に向けてさまざまな課題に皆さん熱心に取り組んでくださいました。後期はいよいよ卒論の提出ですが、引き続きがんばっていきましょう！
卒論セミナー a	志渡岡 理恵	卒業論文に向けて意欲的に取り組む学生が多く、発表準備もよくなされていた。受講生同士が切磋琢磨して成長していく姿が頼もしかった。満足度は4.67、説明の分かりやすさ、双方向の工夫は共に4.83と高かった。「論文の基本的な書き方が、実際に書くことで分かった。また同じゼミ生の文を読むことや、客観的なアドバイスを貰うことで改善点などが分かった」などのコメントが寄せられた。
卒論セミナー a	諏訪 友亮	懇親会などのイベントが解禁されたことにより、ゼミ長の負担が多くなってしまいました。来年度からは担当を細かく分け、サブゼミ・自主ゼミを活性化できるよう取り組みたいです。
卒論セミナー a	猪熊 作巳	様々な関心の学生が集まったゼミですが、一人一人の学生が自律的に研究に取り組んでおり、心強く感じています。この調子で卒論完成までがんばりましょう。
卒論セミナー a	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.71~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、事前事後学修を充実させるために、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けてのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。
卒論セミナー a	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとう。 後期も頑張って卒論に取り組みましょう。

[2022 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー a	難波 雅紀	<p>「卒論セミナーa」では、卒業論文の作成に向けて、①テーマの設定、②題材の選定、③背景的情報の収集に主に取り組んできました。</p> <p>①については、「テーマとは何か」という根本的な問題に対する理解は一定程度得られたと思います。ただ、テーマと題材との関係性がいまひとつ明確にならず、なかなかテーマを設定できない場合があります。</p> <p>②に関しては、いくつか題材を抽出しても、内容的に見た場合にそれらが関連していないことが多いので、その中からテーマに即したものを選別していくのに時間がかかりました。でも、その過程が必要不可欠なことは理解できたようです。</p> <p>③背景的情報は、テーマを論じていくために必要な情報を選別することで得られるので、①と②に深く関連するものです。情報収集の結果は後期のセミナーの場で個々に確認していく予定です。</p> <p>以上</p>
卒論セミナー a	柳田 亮吾	<p>こちらは回答くださったのがお一人だけなので何とも言えませんが、授業は私がお話をするよりも、ゼミ生同士で自身の研究の進捗を発表し合う形で進めました。それによってゼミ生同士が切磋琢磨しながら研究を進めることができたかなと思う反面、もう少し私から講義的な内容をお伝えしてもよかったかなとも思っています。匙加減が難しいですが、今後ゼミ生のみなさんのご意見を聞きながら、よりよい形を模索したいと思います。</p>